

《 今日の主なニュース 》

～ 日経ニュースなどを中心に抜粋 ～

◆2025年の世界成長率0.5ポイント下げ IMF予測、米国にも関税が打撃

・国際通貨基金(IMF)は2025年の世界の成長率見通しを前回1月時点の予測から0.5ポイント下げて2.8%とした。トランプ米政権の高関税政策の影響ですべての地域が下方修正で総崩れとなった。米国自身への打撃も重さが際立つ。「世界景気悪化」の目安となる2%割れも3割の確率で起きうると警鐘を鳴らした。

◆大企業社員、健康保険料率9.34%で過去最高に 賃上げ効果薄れる

・大企業の従業員らが入る健康保険組合の平均保険料率が2025年度に過去最高の9.34%となることが分かった。団塊の世代が全員75歳以上の後期高齢者になり、現役世代に拠出金負担がのしかかる。賃上げの効果が薄れ、成長と分配の好循環に向けた消費拡大の重荷に。健保組合の経常収支の合計は3782億円の赤字を見込む。

◆24年度の実質成長率は0.6%、25年度は0.4% NEEDS予測

・日本経済新聞社の経済・金融データサービス「NEEDS」の日本経済モデルに、2025年4月22日までに公表された各種経済指標の情報を織り込んだ予測によると、24年度の実質成長率は0.6%、25年度は0.4%の見通しに。1～3月期のGDPは前期比0.3%減(年率換算で1.4%減)と、4四半期ぶりのマイナス成長の見通しとなった。

《 業界ニュース 》

～ 日経ニュース・日刊工業新聞・新建ハウジングなどを中心に抜粋 ～

◆東京23区の中古マンション、1年で3割高 文京区も億ションに

・不動産調査会社の東京カンテイが発表した3月の中古マンションの平均希望売り出し価格は、東京23区で前月比4.0%高の70平方メートル当たり9501万円だった。調査を始めた2004年1月以降の最高を更新した。前年同月と比べると3割以上高かった。都心の物件への投資マネー流入が続き、文京区の平均価格は初めて1億円を超えた。

◆3月住宅展示場来場者 東海、九州・沖縄が微増 関東3割超減少

・住宅展示場協議会と住宅生産振興財団が公表した3月の住宅展示場来場者組数は、6カ月連続減となる20万9380組(前年同月比22.3%減)。東海、九州・沖縄がプラスに転じたものの、関東など5エリアは減少。今期来場者の累計は、前年比5.5%減の300万6554組となった。北海道は8カ月連続増(18.9%増)。

◆ガス給湯器の省エネ基準 28年度以降に2.5ポイント引き上げ

・経済産業省はガス温水機器の新たな省エネ基準(トップランナー基準)についてまとめた「ガス温水機器の新たな省エネ基準に関する報告書」を公表。2028年度以降に製造されるガス温水機器のエネルギー消費性能(熱効率)について、22年度実績の85%から2.5ポイント引き上げ、87.5%にすることを目標として掲げている。

《 注目商品 》

■ノーリツ、ガスビルトインコンロ「PROGRE(プログレ)」をリニューアル

・高級価格帯のガスビルトインコンロ「PROGRE(プログレ)」をリニューアルし、8月1日より発売。キッチンアプリ「つなぐレシピ」を連動させることで自分好みの調理方法やレシピを蓄積することができ、日々の調理をサポート。



■アイカ工業、「オルティノ」化粧フィルムの新柄143点

・裏面に粘着剤がついたシート状の塩ビ建築素材「オルティノ」に新柄143点を追加、ラインナップを全709点に。インテリアで需要が高まっている重厚な表情のモルタル柄や自然の風化を感じられるメタル柄、結晶の表情を再現した大理石柄などの新柄を増強。



■LIXIL、ハイブリッドサッシを拡充「PRESEA-H」

・業界最高クラスの断熱性と強度を実現するビル新築用アルミ樹脂複合サッシ「PRESEA-H」に、換気用小窓となるすべり出し窓を追加。また、分譲マンションの大規模改修向けに、カバー工法の「PRESEA-H・RF」引き違い窓を刷新。

